

令和四年度

# 水について考える

第四十四回 「全日本中学生水の作文コンクール」 茨城県優秀作品集

茨城県



「私にいまできること」	土浦日本大学中等教育学校	二年	稲 <sup>いな</sup> 葉 <sup>は</sup>	なのは	.....	19
限りある水	土浦日本大学中等教育学校	二年	太 <sup>おお</sup> 田 <sup>た</sup>	ことま	.....	21
「水の日」及び「水の週間」について	.....	.....	.....	.....	.....	23
第四十四回「全日本中学生水の作文コンクール」茨城県審査について	.....	.....	.....	.....	.....	24

第四十四回

茨城県優秀作品

(令和四年度)

## 最優秀賞

「蛇口をひねれば水が出る」は当たり前ではない

鹿島高等学校附属中学校

二年 渡邊 桃香

手を洗いたい時、のどが渴いた時、水道の蛇口をひねれば、そのまま飲むことができ、きれいな水が出てくる。それが日本では当たり前だ。しかし、世界の中には、それが当たり前ではない国がたくさんある。

例えば、アフリカでは浄水設備が無いだけでなく、井戸などの貯水設備も少ない。貯水設備があったとしても、管理が施されないため、不衛生な水になっている。また、内戦や紛争が多いことで水道施設が無い場所に追いやられている人々もいるのだ。このような地域では朝、壺を持って家を出て、半日ほどかけて水を汲みに行き、夜にやつのことで家に帰り、その水を煮沸消毒する労力をかけて、水を飲んで

ているのだ。この手間ひまがかかっている水はとても貴重であり、人々は水をとっても大切に扱う。とはいえ、世界にこのような状況下におかれている人々がいること自体、当たり前だと思っただけではない。水を汲みに行くために、学校に行くことができない子供もいるのだ。日本と比べると、いくらなんでも、理不尽過ぎると思う。私は、普段毎日お湯をためてお風呂に入っていることさえ水を無駄使いしているように感じた。それほど格差が激しいと思う。

もし、日本でもこのような状態になったらどうなるのだろうか。朝起きたら、重い壺を抱えて遠くまで歩く。たどり着いたのは泥の混じった水で、それを汲み、また元の道に戻り殺菌してやっと飲める水になるのだ。私は学校に行くのが好きなので、もし毎日水を汲みに行くために学校に行けないのだとしたら悲しい。友達とも会えないし、勉強もできない。それは今の私の生活からは全く想像できない。人は、食べ物が無くても睡眠と水さえ摂れていれば二〜三週間は生きられるという。だから、水は必要不可欠なのだ。そのため、大きな苦勞をしてでも汲

みに行かざるをえないのだ。

そんなアフリカなどの子供たちに、私たちができることがある。汚れた水を安全な飲料水にする浄水剤を購入すること、下痢による脱水症状から子供を救う経口補水液を提供することなど、数千円の支援で多くの子供たちの暮らしを改善することができ。私も大人になって収入を得るようになったら支援したいと思うし、するべきだとも感じている。

近い未来、発達した貯水設備・浄水設備の技術が日本などから伝わって、アフリカなどの世界の国々も蛇口をひねって水が出る日が来なければならぬと思う。日本とアフリカはとても遠いので、日本だけでなく、様々な国同士で協力していく必要があると考える。

私が理想とする人は、アフリカの人々に寄り添い、65万人の命と生活を守った医師、中村哲さんである。中村さんは、復興に生涯をささげた。私は将来、医師になりたいと考えている。その理由のひとつは、病気に苦しむ子供たちがいることを知ったことである。私が学校に行っている間に、友だ

ちと笑っている間に、治療を頑張っている子供がいる。そんな現状がとても心苦しいからだ。

世界では汚れた水を飲んだことで病気になり、抵抗力の弱い子供たちは亡くなってしまっている。また、不衛生な水しか無い劣悪な環境の中で生活していると、身体を清潔に保てないために病気になりやすくなってしまう。こんな状態がずっと続いて良いわげがない、と強く感じた。そのため、医師になるための勉強をする際には、水に関する病気やその予防策も学び、私にできることをしたいと考えている。

今私ができることは、水を大切に使用することだ。人々に直接豊かな水資源を届けることはできないけれど、意識することが必要だと感じている。蛇口をひねれば水が出ることを、当たり前だと思わずに感謝したい。

## 優 秀 賞

みんなが幸せになる洋服を

茨城大学教育学部附属中学校

三年 金 沢 青 空

洋服に関する事で驚いたことがある。洋服を作るために水が使用されているのだ。

例えば、コットン製のTシャツ一枚を作るために二七二〇リットルの水が、ジーンズ一本を作るために最大で一〇八五〇リットルの水が使われている。これは、洋服の色を染めるための染料を洗い流したり仕上げたりする工程や、その製品を作るための原料となっている植物などを育てるために、水を使うためである。

このように、繊維製品の生産には大量に水が使われ、その量はなんと年間で九三〇億立方メートルである。これは、オリンピックの水泳プールに換算すると、三七〇〇万杯分に値する。私はこれを知った

とき、水の量が多すぎるあまり、想像もできないくらいだった。

また、洋服に関する問題は水の大量消費だけではない。河川の水質汚染だ。衣類の染色と仕上げの工程で生じる廃水が、世界中の廃水のおよそ二〇%を占めている。この廃水の中には、窒素や殺虫剤が含まれており、その土地の生活用水を汚染していることになる。

洋服を作るために、水が使われたり、汚染されたりすることによって、人の命が奪われていると言っても過言ではない。人々の生活に使われるはずであった水が洋服の生産に使われ、生活に使える水が限られる。また、きれいで安全な水を手に入れることが困難になり、汚染された水を飲まなければならぬような状況になる。

限りある水資源が大量に消費されていたり、汚染されていることはもちろん問題だ。だが、私が最も問題視する点は別のところにある。今飲む水に困窮し、健康を害したり、命を落としたりする人たちが世界中に大勢いる現状の中で、水の使い方の優先順

位を改めなければならぬ点である。確かに、オシヤレをしたり、新しい洋服を買ったりすることは私たちの心を豊かにし、満たしてくれる大切なものの一つである。だが、限りある水資源の使い方を今一度考えるべきではないだろうか。私が普段着ているものが、どこかの人々の水問題をさらに悪化させているかもしれないということにとっても悲しくなった。

シヨッピングモールに出かければたくさんの洋服が並ぶ。テレビを見ればファッション特集が組まれている。洋服は、私たちの生活にとって当たり前にあり、必要なものだ。だからこそ、一人一人が洋服と水の問題について知識を深め、考え行動していかなければならない。具体的にはどんなことがあるだろうか。

例えば、購入する製品を見直すことだ。コットン製のTシャツを買う際に、オーガニックコットンを選んだり、ジーンズを買う際に、ローウオーターという手法を使ったジーンズを選んだりするだけでも、水問題に貢献することができる。オーガニックコットンを選べば従来の綿より九一%も使用する水の量

を削減することができる。ローウオーターという手法のジーンズでは、使用する水の量を六一%も削減できる。

日本には、伝統的な技術に藍染めや草木染めなどがある。染料は自然に還る素材でできており、水質汚染につながることはない。このような技術に再度注目し、行動を起こすことも重要だと思う。

私たちの身につけている洋服の多くが発展途上国で生産されていることや、先述した水に困窮する人々のことを考慮すると、一刻も早く改善点を見つけるべきだ。

そのために私たちがすべきことは、正しい知識を得るために学ぶことから始まる。そこから、一人一人が行動することで、本当の意味でみんなが幸せになる洋服が世の中に広まるだろう。

## 優 秀 賞

### 水の未来

茨城大学教育学部附属中学校

三年 近 納 空 良

地球は水の惑星と呼ばれていますが、遙か昔、地球はマグマの海で、水は水蒸気として存在していました。その後、地球が急激に冷えたことで雨となって地上に降り注ぎ、海や川が生まれました。こうして水の循環が始まり、人類が大河のほとりに文明を築いたことで、今日の生活の基礎が形成されました。ところで、皆さんは「水」と聞くと何を思い浮かべますか。雨や水道水、飲料水などいろいろなことを連想するのではないのでしょうか。水は、それだけ多くのことに利用され、私たちの生活と切り離すことができない重要な資源となっているのです。

水利用の一つとして、発電が挙げられます。火力・原子力発電は、発生させた熱で水を水蒸気にし

てタービンを回し発電しています。また、水力発電は水の位置エネルギーを利用し水車を回して発電しています。この水力発電に利用されているダムですが、ダムは発電以外にも水利用に関して重要な役割を二つ担っています。

一つ目は、洪水調節です。大雨が降った時、ダムに一時的に水を貯めることで川が氾濫することを防いでいます。

二つ目は、水資源の確保です。水道水の他、農業・工業用水として使用するための水を溜めておくのです。また、こうすることによって長い間雨が降らなかつた時の干害に備えることにもなっています。このように、水は私たちの生活を豊かにしていますが、水が地球を守ることも注目されていることをご存知でしょうか。厳密に言えば水と言うより水を素なのですが、近年、水素を燃料とした乗り物の開発が進んでいます。水素は、ガソリンなどの燃料と違って燃やしても水しか排出しないため、地球にとっても優しく、排出した水からまた水素を作ることができるため、資源が枯渇する心配がないのです。

しかし、今、私たちに多くの恵みをもたらされてきている水が、私たちの手によって危機にさらされています。具体的には水質悪化や海洋汚染です。

僕は子どもの頃から生き物が大好きで、水辺の生き物図鑑を見た時に実物を見てみたいという欲求に駆られ、田んぼや川に出かけたことがあります。その時の思い出は、生き物が全く存在しない濁った水が流れている風景です。後日、父が子どもの頃はメダカや蛍などの生き物がいたけれど、農薬や水路のコンクリート化などによってどんどん生き物が減ってきているという話を聞いた時、僕はとても悲しい気持ちになりました。なぜなら、人間のエゴで何の罪も無い生き物たちがその数を減らしているという事実を知ったからです。

僕は、今こそ水に恩返しをするべきだと考えます。具体的にはSDGsの取り組みを行うと良いと思います。SDGsとは、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す開発目標です。節水など自分たちができる身近な取り組みを心がけることで、「塵も積もれば山となる」という言葉があるように、

後に大きな効果に繋がると思います。私たちは水を上手に活用して生活してきましたし、これから先も水と共に生活していくことでしょう。

そんな中、水が今よりさらに悪い状態になってしまったらどうでしょう。困るのは自分たちだけでなく、これから生まれてくる人たちにも大きな影響を与えてしまうことになります。水を守ることは地球の未来を守ることに繋がっているのです。

この星の未来は私たちに託されています。どう生きるかは自由ですが、地球は一つしかありません。皆で協力して水を守り、地球と人類の未来を共に創っていきましょう。

## 優 秀 賞

水を得るために

竜ヶ崎第一高等学校附属中学校

二年 園 田 桃 子

私は、日本に住む十三歳の女の子。彼女は、エチオピアに住む十三歳の女の子。午前六時三十分。私は起きる。彼女は水を汲むために歩き始める。十時四十分。私は学校で授業を受ける。彼女は川で茶色くにごった水を汲む。十一時二十分。私は授業を受ける。彼女は帰路につく。午後四時二十分。私は部活動が始める。彼女は家でご飯を食べ、水を飲む。九時三十分。私は課題に取り組み。彼女は眠りにつく。そして、また一日が始まる。

私は彼女の存在をユニセフの動画で知った。彼女はわずかに五リットル未満の水を汲むために毎日八時間を費やし、時間と教育を受ける機会を失った。彼女の生活は私の生活とはあまりにもかけ離れていて、

想像すらできないものだった。しかも、このような生活を送っているのは彼女だけではないのだ。世界中の女の子や女性が水汲みに費やす一日当たりの時間の総計は二億時間に上るといふ。この現状を、どのくらいの人が知っているだろう。

なぜ、日本とエチオピアではこんなにも生活が異なるのか。水は絶えず循環しているため、上下水道の設備が整っていれば、日本のように誰もが安全な水を継続的に利用できるようになる。だが、それには多額の資金や高度な技術が必要なため、その状況によつて、設備が整っている国と整っていない国が生じることになる。それならば、日本の水を送ることができたらい良いと思うが、水の運搬にはお金もエネルギーも必要のため、実現は非常に困難だろう。

住んでいる国が違えば、生活環境も違う。生活環境が違えば、「水」も違う。これはあたりまえなことかもしれないが、私はあたりまえという言葉で済ませたくない。そもそも自然は、人間のものではなく地球のものだ。だから、人間のためにも地球のためにも、水はいつも美しく、誰にとっても身近な存

在であってほしい。

そのために、私たちには何ができるだろう。もちろん、まずは節水が効果的だと思う。今すぐ始めることができる手軽な取り組みだからだ。一度に大量の水を減らすことは難しいが、コツコツと続けていくことで確実に水を減らすことができる。例えば、お風呂の残り湯を捨てずに、洗濯や掃除、植物への散水に使用したとする。残り湯の半分を再利用することで、約百リットルの節水になる。これを一ヶ月間続ければ約三千リットルの水を節約することができるのだ。この取り組みを日本全国で行えば、もっと多くの水を確保することができるだろう。

次に、地産地消を行うことだ。日本は海外からの輸入に頼った食生活を送っているため、バーチャルウォーターの負荷が問題になっている。バーチャルウォーターとは、食料を輸入している国が、その食料を自国で生産するために必要な水の量を試算したものである。食料を輸入することは、食料を生産している国の水を輸入していることと同様だ。よって、食料を生産している国の水不足を加速させてしまう

恐れがある。地元で生産された食料を地元で消費することは、バーチャルウォーターの削減につながる。と考える。

また、私の学校では水道の蛇口に自動水栓を取り付けている。自動水栓とは手をかざすと水が出てきて、その後自動で止まるといふ器具だ。清潔に水道を使用でき、さらに節水もできるので大変便利だ。水は限りある資源だが、私たちの行動次第で持続可能な資源にすることもできる。

午前十時四十分。私は今日も学校で授業を受ける。彼女も学校で授業を受ける。水道の蛇口をひねるだけで、透き通った水が出てくる。だから、もう誰も水を汲みに行く必要はない。そんな生活が日常になることを願っている。

## 優 秀 賞

水が教えてくれた現状と世界

日立市立十王中学校

三年 永井 歩

私は、小学校の頃浄水場について学習した。これをきっかけに、小学四年生の時、自由研究で「水のゆくえ」について調べた。その時、水は限りある資源であり、大切に使う必要があると強く感じた。しかし、私達の生活に水は欠かせない。今回、その調査結果と世界の現状を踏まえ、自分たちが水を使う時にできることを自分なりに考えてみた。

まず、「水のゆくえ」について、ダムや下水処理場で調査した。十王ダムでは大きなゲートで水の放出や貯水を行うこと、流域表示板で細かく管理しているなど、ダムの役割を知った。大雨時の洪水調節、水道調節、工業や農業用水など様々な用途や天候に合わせて細かく管理しているようだ。もしダムがな

かったら、水は貯水されることなく流れて洪水の原因になったり、必要な時に水が不足したりするなどの問題が起きてしまうだろう。十王町が洪水や水不足にならず豊かに暮らしているのは、十王ダムのおかげであることを知り、改めてダムの大切さに気づいた。

続いて「伊師浄化センター」を訪れた。家庭へと送られた水は下水道を通って下水処理場へと運ばれる。ここでは機械、微生物、薬品を使い安全な水に戻す。まず機械で土砂を沈ませる。次に微生物が有機物を分解し、最後に薬品で安全な水に仕上げる。そして、きれいになった水は付近の川に放流される。調べてみて、水がきれいになるまで相当時間がかかっていることに気づいた。また社員の方に「下水道は詰まることはないのですか。」とインタビューしたところ、「油や野菜くずは詰まらせる原因になるので直接流さないでほしい」と言っていた。この話を受けて、例えば新聞紙で油を吸い取ったり、野菜くずを分けて捨てたりするなどの取り組みを、皆で継続して行うことが重要であると感じた。ぜひ普段

の生活で実践していきたい。

次に世界の現状について調べた。日本は安全できれいな水が豊富にある。しかし、世界では人口増加による水不足や紛争も起きている。日本ユニセフ協会のページには次のような悲惨な現実が書かれていた。

「三百三十万人を超える子どもたちが、水の重さに耐えながら、毎日遠い道のりを歩き続けています。疲れ果てた子どもたちには、学校に通う時間も体力も残されていません。」

この事実を知り、水不足の問題は早急に解決すべきであると感じた。せっかく手に入れた水も安全な水とは言えない。日本では水不足で困ることはなく、子供は学校に通うことができる。しかし、別の国では子供が水汲みのために学習する機会を奪われている。このような環境を少しでもよくしようと、日本人スタッフも現地で活動しているようだ。しかし、その活動をただ見ているだけで問題は解決されるのだろうか。私は人に頼るのではなく「自分でできることは何か」を考えることが大切であると考える。

例えば、募金や寄付などの支援活動や、周りの人々にこの現状を伝えることも問題解決につながる大きな一歩になるだろう。今後、世界中どの地域でも水が豊富に使えて子供も自由に学習することができる世界を目指して、自分にできることを考えて行っていきたい。

最後に、水はとても身近であり、意識しなければきれいで安全な水は当たり前であると思ってしまう。ダムや下水処理場があることで当たり前のように安全な水が飲めること、世界には水不足で悩む人がいることを、今回調べなければ、気づくことも知ることでもできなかっただろう。目の前のものが「当たり前」ではなく、たとえ見えなくても、多くの人の手によって成り立っていることを忘れずに生活したい。そして自分のかかげる理想の世界を胸に、日本から支援というエールを送りたいと思う。

## 入 選

「水」の力

茨城大学教育学部附属中学校

三年 野 村 優 仁

現在、環境破壊が進んでいると叫ばれている。実際、異常気象をはじめとする被害が目に見えてわかるようになってきた今、僕は、「水」の力がこれからの対策のカギになり得るのではないかと考えている。

僕が中学二年生だった時、学校で、あるシンポジウムに参加し、地球温暖化等を友達と調査した。そして、まとめたことを発表したのだが、そこでわかったことが二つある。一つは、環境問題は緊急な課題であるということ。もう一つは、課題の原因を知り、それをいかに取り除くかを様々な見方から考えることで、その課題は改善に向かうということだ。例えば、僕が学校で調査した地球温暖化の原因は

何か。その答えの一つと考えられているのが、二酸化炭素などの温室効果ガスだった。では、その温室効果ガスが増える原因は何であろうか。その一つは、化石燃料を燃やすこと、例えば火力発電と考えられていた。もちろん、火力発電にもメリットは多くあり、事実、電力を安定的に供給するには火力発電が欠かせない。

しかし、環境破壊が深刻になってきた今、火力発電だけではなく、クリーンな発電方法が求められてきているのではないだろうか。「発電量の多さ」とは別のものの見方が必要になってきたと感じる。そこで、社会では再生可能エネルギーに注目が集まってきた。

その中で、僕が推進していくべきだと思ったのが「水」の力、つまり水力だ。水力は、再生可能エネルギーで、発電しても温室効果ガスを排出しない。しかも、燃料を海外から運ぶ必要がなく、エネルギー変換効率も高いそうだ。このように水力はクリーンなのだ。さらに、山や川の多い日本に適した発電方法でもある。このようなメリットから、僕は、水

力発電をより促進させるべきだと考える。

しかし、調べてみると、水力発電には大きな二つの壁があることがわかった。一つ目は、ダムなどを作る大変さ。二つ目は、水力発電のシステムを整える過程自体で起こる、温室効果ガスの排出などの環境破壊だ。

そこで、一つ提案がある。ミニ・マイクロ水力発電をさらに広めていくのはどうだろうか。これらの水力発電は、上下水道水や、農工業用水などの、今まで使われてこなかった「水」の力で電気をつくる発電方法だそうだ。「ミニ」や「マイクロ」と名付けられている通り、大規模な水力発電と違って発電量は少ない。ちなみに、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構によると、千キロワット以下をミニ水力、百キロワット以下をマイクロ水力と分類しているそうだ。このように、発電量は少ないが、その分大がかりな工事は必要ない。そのため、従来より手軽で、しかも、既にある技術や設備を活用すれば、装置を設置すること自体による環境破壊は抑制できるそうだ。

これらのメリットがあれば、大規模な水力発電はできない地域でも、ミニ・マイクロ水力発電は行いやすいのではないだろうか。一つ一つの発電量は少なくても、多くの地域で広まれば、かなりの発電量が確保できると思われる。

実は、先のシンポジウムでわかったことがもう一つあった。それは、環境破壊を食い止めるには、一部ではなく、できるだけ多くの人の関心や協力が必要だということだ。環境問題は、人類共通の課題であるため、少人数で食い止めることは難しい。しかし、この観点からも「水」の力はうってつけだと言える。水は生活に必要不可欠で、かつ身近であるため、話題を作れば、多くの人が、難問である環境問題にも関心をもてると思うからだ。

以上から僕は考える。「環境破壊を食い止める」この大きな役割を、「水」の力は担うことができるのではないだろうか。

## 入 選

### 水の記憶

水戸市立第四中学校

二年 佐藤 真季乃

水には記憶があるといえます。

「水の記憶」。これはジャック・バンヴェニストという学者が唱えた説です。水は一度溶かしたものを覚えていくというものです。ものすごく薄い濃度でも、水は覚えていくそうです。

この作文を書こうと思い、もう一度水について、考えました。水はどうやってできて、どこからくるのだろう。私は一日にどれだけ水を使っているだろう。何に使っているだろう。色々なことを考えている中で、「水の記憶」というものがあつたことを思い出しました。初めて水には記憶があると聞いたとき、私はとても驚き、関心を持ちました。水にも記憶があるんだなあ。今、私が飲んでいる水には、ど

んな記憶があるのだろうか、と。

そこで私は、水の目線になって考えてみました。溶かしたものだけではなく、行った場所なども覚えていたらどうだろうか？

まずは、水道水として、人の生活に使われた場合。私は毎日必ず水を使います。飲み水としてはもちろん、料理、洗たく、トイレやお風呂。数え切れない程たくさん用途で生活に用いています。その中で、「飲み水」の目線になってみました。水道の蛇口から出てコップに注がれる。そして、人の口に入る。その人が幸せだと思ってくれたら、水の私も幸せだと思えます。でも、その人に「おいしくないな」と思われたら、水の私は悲しくなります。また、蛇口から出ても使われず、そのまま流されてしまったら、もっと悲しくなると思います。水は蛇口に来るまで、いくつもの過程をたどって来ています。浄水場などでせっかききれいにしてもらったのに、使われずに流されてしまったり、無駄にされてしまったら、とても悲しく、辛い思いをします。だからこそ、水は大切に使わなければいけないなど、改めて思いまし

た。

次に、海や川の水になって考えてみました。海や川には、きれいで透き通った所もあれば、汚れてしまっている所もあります。雨として海や川に降ってくる。その場所が、とてもきれいだったら。水の私は嬉しい気持ちになります。きれいな所なら、魚や昆虫、植物などたくさん生き物に出会うことができます。でも、汚ない所だったら。嫌な気持ちになります。自分がこれから旅をするなら、もちろんきれいな場所がいいからです。水だって、旅をしています。周りの仲間と、離れたり、くっついたりしながら、流れて旅をします。なのに、その場所が汚れていたら、きつと嫌な思いをします。様々な生き物に出会うことだってできません。そんな汚れの原因は、やっぱり人間だと思います。人の生活から出るゴミなどで、海や川、それ以外の自然環境も、汚されてしまっています。今、このような環境問題が、世界で見直されています。汚してしまうのは一瞬でも、きれいだった元の姿に戻すには時間や労力がかかります。また、何も悪いことをしていない

生き物たちにも、迷惑をかけてしまいます。だから、一人一人が意識して、このような問題と向き合わなければならぬのです。

地球は、「水の惑星」です。私たち生き物は、水がなければ生きていくことができません。毎日毎日、水に助けられて生きています。世界には、水を飲むこともできずに、苦しんでいる人がいます。そして、水を必要としているのは人だけではありません。だから、いつでも自由に水を使うことができる私たちが水を無駄にすることなんて許されません。水を使えることに感謝して、大切に使います。

「水さん、ありがとう」

## 入 選

大切に使おう、限りある水

水戸市立第四中学校

一年 小 西 凜 花

私達の生活に欠かせない水。じゃ口からいつでも出る水を当たり前だと思っっている。私自身、水がない生活を経験した記憶がないからだ。しかし今回、この作文をかくにあたり、母と水について話をした。そこでいろいろと感じたことを書こうと思う。

まず、水は私達の生活の上で飲み水として大切な物だ。水を口にしない日はない。また飲み水としてだけではなく、洗たくやそうじなど、私達の生活の中でたくさん使用されている。では、この水がなくなったらどうだろう。母は、東日本大震災の時の事を話してくれた。私は当時まだ二さい。全く記憶にない。あの日、母は夜勤から帰って自宅にいて、私と兄、姉の三人は保育園にいた。母は大きな地震に

あわてて外に出たという。その時、母はすぐに家の中にもどり、お風呂の水を満たんにし、なべやペットボトルに水をためたそうだ。理由を聞くと、停電をし、水も電気も使えなくなると思ったからだという。その後、母は私達三人を急いでむかえに来て、スーパーに寄り、すぐに食べられそうなパンやおかし、そして飲み物を買って家にもどった。母はこの時水のありがたさを感じ水に対しての考えが変わったという。当たり前だったことが、当たり前でなくなる。その不自由さを感じ、今まで以上に節水を意識するようになったという。洗い物の間、水を出しっぱなしにしない。ちよつとしたことかもしれないが、家族五人が日々意識すれば、大きな節水につながる。そう思った。

また、母はつい最近の出来事として、なか川はんらんについて話してくれた。二〇一九年十月、台風によりたくさんさんの雨が降り、川の水が人々の住む街にあふれ出した。茶色くにごった水。テレビでその映像を見てびっくりした。私も父や母の車で通ったことのある道。しかし、テレビに映っているものは、

私の知っている風景とは違った。この時、茶色にごった水に恐怖を感じた。私達の生活に欠かせない水が、街をおおい、あらゆる物やそして人々までをおし流す。でも、何もすることが出来ない。次々と大量の水が流れこんでくる。こんなことが起こるんだと怖くなった。今、私のこのいる場所で同じ事が起こったら、私はどうするのだろう。にげられるのだろうか。自信がない。そのため、日ごろから災害時に自分はどう行動したらよいか考え、家族とも話し合いをしておく必要があると思った。自然が起こす災害は、突然私達の前で起こる。これまでの災害について調べ、自分なりにどう行動するべきか、考えていこうと思う。

また、今回、母と水について話をし、私達は日ごろ、水に困ることはほとんどないが、世界の中には、水が不足している所がたくさんあると知った。私達のように、きれいですきとおった水ではなく、飲み物も十分になく、洗たくも川の水を使う。また、水や食べ物も十分になく、栄養不足となり、時には命を落としてしまう子供もいる。同じ時に生まれてい

るのに、あまりにも生活が異なり、とても悲しくなった。だから、私も水を大切に使おうと思うようになった。水不足で困っている人達もたくさんいる。水があることを当たり前に思わず、出しっぱなしにしたりせず、水分をとる時も大切に飲みたいと思う。私が今できることは小さな事かもしれないけど、私と同じようにみんなが少しでも気にかけて過ごすようになって、大きな変化になるかもしれない。だから、家族や友達に声をかけていきたいと思う。

## 入 選

母なる川を守るには

筑西市立下館中学校

二年 古 橋 幸 帆

「水」といえば川。川は人間にとって命をつなぐ「母なるもの」と言われるように、とても重要な役割を果たしています。

川は、人間が生きていくのに必要な水を運ぶ役割や、人々にうるおいを与え生活をよりよくする役割、そして生物の憩いの場になることなどがあります。

私は、生態系に興味があり、毎日、自然の観察を兼ねた散策の為、小貝川へ出かけています。そこでは、ヨモギ、スゲなどの植物やキジ、カワセミなどの鳥類が見られます。小貝川はたくさん動物を育む生物の憩いの場になっていることを実感します。そんな豊かな生態系を育んでいる川を守るためにはどんな取り組みが行われているか興味を持ち、下

館河川事務所のホームページを調べてみました。すると、三つの大切な機能があることが分かりました。それは、治水機能、利水機能、環境機能です。国土交通省のホームページにも掲載されていて国と地域が連携して取り組む重要な施策だということが併せて確認できました。

一つ目の治水機能とは、洪水による被害を阻止し生命と財産を守ることです。

近くに流れている小貝川でも多くの取り組みが行われています。河道（川そのものが流れる道）の整備や築堤の推進、流下能力が不足する区間での引堤です。また、地域防災リーダーの育成や地域連携防災訓練などを行い、いざという時に備えています。

私がいとも歩いている川の土手は、近隣住民の命を守る大切な堤防だと思いました。

二つ目の利水機能とは、飲み水や農業用水等で生活を支えていることです。

小貝川では、水路を整備したことで用水路が造られ、新田開発が盛んになったそうです。現在でも、小貝川の水はほとんどが農業用水として利用されて

います。また、下流では一部工業用水として利用されています。筑西市のおいしい農産物は、小貝川の恵みなんだと思いました。

三つ目の環境機能とは自然・生物等の保全で生活と街をうるおすことです。

小貝川では、流域の環境負荷削減対策を行い、より水質を良くしようとしています。BOD（生物学的酸素要求量）を2 mg/Lと国の基準を満たしたきれいな川です。ほかにも、小貝川は多種多様な動植物が息づいています。絶滅危惧種のフジバカマやキタミソウをはじめとする、多くの希少生物が生息する自然の宝庫です。また、小貝川流域治水プロジェクトなどを行い多様な生物の生息環境をつくる取り組みも行っています。だから小貝川は、あんなに緑が多くとても自然豊かなんだとおもいました。

このような三つの取り組みが、川から私たちを守り、そして生命を育んでいることが分かりました。このことを知った私は川を見る目が変わりました。こんな命をつなぐ母なる川を守っていくには一人一人がごみを捨てない、希少生物を取りすぎないなど

といった一人一人ができる工夫が必要だと思います。私の将来の夢は、自然に生きている植物や動物などの生態系を調べて、より生き物たちが生きやすくなるように研究することです。そのために、日々の中学校生活を頑張っていきたいです。

## 入 選

「私にいまできること」

土浦日本大学中等教育学校

二年 稲 葉 なのは

水の作文の課題が出されるまで、私は水に対して深く考えたことはありませんでした。水は当たり前のように存在し、当たり前のように日々使っていたからです。改めて水のことを問われて私が水について調べてみたいと思ったことは二つあります。まず一つ目は、当たり前のように日々使っている私たちの水はどこから来ているのか。です。二つ目は、どの季節が一番水の使用量が多いのか。です。

私の住んでいる守谷市の水道が、近くに水源がないことを理由に茨城県が購入していることを初めて知りました。守谷市の水源は利根川で、取手市内にある茨城県企業局利根川浄水場で取水し浄水したものを受水していることがわかりました。水のことを

調べていく中でユニセフのホームページが目に残りました。大きな字で、「どんなに汚くてもこの水を飲むしかない。」と書いてあります。その字とともに映っていたのは、黒人の男の子が泥で濁った水を飲んでる姿でした。私たちと同じくらいの子どもたちが水を汲むのに毎日遠い道のりを歩き続けています。学校に行く時間もなく友達と遊ぶ時間もありません。ようやく、手にした水も泥や細菌、動物の糞尿がまじった危険な水です。安全な水を飲めない人が世界には六億六千三百万人もいるそうです。このユニセフのホームページはとても衝撃的でした。私が今まで当たり前前にそこにあり、当たり前前に使っていた水が当たり前前に使えない人たちがこんなにいるなんて。水も資源で限りがあるということは知っていました。が改めて大切に使わなければいけないと感じました。

そのために自分ができる節水方法を考えてみました。トイレの水を流す時、私は無意識で「大」レバーで流していました。これからは流す時「大」「小」をしつかりと使い分ける事を意識していき

いです。また手を洗う時や顔を洗う時、蛇口のひねりを小さくすることも節水につながると考えました。歯磨きする時も今までは水を流したまま、手で水をすくってうがいをしていましたが、コップに水を入れてからうがいをしようと思います。これらの事は私一人だけが意識するのではなく家族にも伝え家族で取り組めたらさらに節水できると思いました。

次に、日本の季節ごとの水の使用量についてです。私の実体験からすると、夏はプールや飲み水として利用する事が多かったり、生活用水として利用するから夏は水の使用量が多いと感じました。インターネットで季節別の水道代の平均額を調べてみました。一月から三月は五千百四十八円。四月から六月は五千二百八十五円。七月から九月は五千百七十円。十月から十二月は五千四百十六円でした。調べて感じた事は一年間を通してそこまで使用量に大きな差はないことが分かりました。またこのデータを見て、意外にも夏よりも冬のほうが水道代が高いことにびっくりしました。母にその話をすると、夏は暑いから浴槽に入らないでシャワーで済ませられる日が多

いが、冬は寒いから毎日浴槽にお湯を張らなければならぬからどうしても水道代がかかるよね。という話を聞きました。そして、冬は年末大掃除をするので水を使う機会が増える話も聞きました。初めは、軽い気持ちでどの季節が一番水を使うか気になりましたが、どの季節に於いても節水を心がけることに変わりありません。

最初にも書きましたが、当たり前に日々使っている水について何の疑問も持たずに今まで使っていた使っていました。水について調べていくうちに資源には限りがあること。安全な水を飲めず毎日多くの人が亡くなっている国があることを日々念頭に置き、まず自分ができる節水を始めていきたいです。

## 入 選

限りある水

土浦日本大学中等教育学校

二年 太 田 ことま

私は昨年の夏休みに友達と身近な川の水質調査の研究をしました。今年は季節毎の水質調査をします。冬と春の川の採水が終わり、田んぼから流れ出た肥料が、川の水質にどのような影響があるか比較しています。

田んぼについて知る必要があります、インターネット等で調べてみると、稲作をする上で田んぼの水の管理はとても重要で、農家の皆さんが苦勞されている事が分かりました。その一つに害虫が穴を開けて畦から水が抜け、田んぼの水が無くなり、洩れている部分を見付けて塞ぐ作業があると知りました。また、水を使用する時は、他の田んぼで使用している事もあり、配慮する事が必要だそうです。限りある水な

ので、上流で多く水を使いすぎると下流の田んぼが水不足になります。私達にとって主食である米は、作る上で必要な田んぼ、水の管理、肥料等、さまざまな問題を農家の皆さんが地域全体の事を考えて工夫しながら作業している事が分かりました。私が研究している川の水質調査でも、肥料の影響を考えています。表面を樹脂（プラスチック）の膜でコーティングした「被覆肥料」があります。肥料成分が徐々に溶出するため、水稲の場合は春に使用する事で追肥が省略でき、作物の生育によって肥料成分が溶出し、地下水等への水域への栄養分の流出も抑えられます。しかし、樹脂膜の分解には時間がかかり、代かき時に水面に浮上し、水田外へ被覆肥料殻が流出してしまいます。最終的には海に浮遊する事になります。プラスチックは紫外線により劣化してマイクロプラスチック化してしまいます。プラスチックは油を吸着させやすい性質を持っているので、油と似た汚染物質がプラスチックの表面について川の水質を汚す原因になるかもしれません。流出させない取り組みや、被覆肥料の代替技術も実用化がすすん

でいるようです。

「よみがえる水」令和二年度いばらきの下水道」を参考に下水道の普及率から川の水に影響を与えているのか昨年の水質調査で調べました。小貝川を放流先としている自治体の下水道普及率で茨城県では桜川市が低い事が分かりました。公共下水道と合併浄化槽等を合わせても、完全に生活排水が浄化されるわけではありません。生活排水に多く含まれるたんぱく質が河川に流れ込むと川の水質に影響を与えることが考えられます。

私の家ではお米を洗う回数を減らす為に、無洗米で精米します。環境に少しでも配慮できるように、タンクに雨水を溜めて、植木や家庭菜園の水やりに使用し、災害時にも備えています。私も歯磨きや入浴時に水を出しっぱなしにしないよう節水を心がけています。水質調査をしている川の周りはプラスチックごみが散乱しているので、ごみ拾いも行いたいと思います。

私達の生活に欠かす事の出来ない「限りある水」を大切に、一人一人の取り組みもとても重要になっ

てくるのではないでしょうか。

## 「水の日」及び「水の週間」について

昭和52年5月31日

閣議了解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年8月1日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

### 「水の日」及び「水の週間」制定の理由

わが国の水需要は、生活水準の向上、経済の進展等に伴って近年著しく増大してきたが、一方水資源の開発は次第に困難になっており、渇水時には水不足が生ずることが予想される状況となっている。

このような状況にかんがみ、毎年8月1日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性に対する関心を高め、理解を深めるための諸行事を行うことによってわが国の水問題の解決をはかり、もって国民経済の成長と国民生活の向上に寄与することといたしたい。

なお、諸行事を行うためには、年間を通じて水の使用量が多く、水について関心が高まっている8月上旬が適当であるので、その初日である8月1日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」とするものである。

## 第44回「全日本中学生水の作文コンクール」茨城県審査について

### 1 募集要領

#### (1) 趣 旨

「水の日」及び「水の週間」の行事の一環として、次代を担う中学生を対象とした作文コンクールを実施することにより、広く水に対する関心を高め、理解を深める。

#### (2) テ ー マ

水について考える（題名は自由）

#### (3) 対 象

令和4年度に県内中学校、中等教育学校1～3年次及び義務教育学校7～9年次に在学中の者

#### (4) 応募締切

令和4年5月9日（月）

#### (5) 原稿枚数

400字詰原稿用紙4枚以内

### 2 応募状況

#### (1) 応募総数

567編

学年別      1年 87編      2年 282編      3年 198編

#### (2) 応募校

12校

茨城大学教育学部附属中学校、鉾田第一高等学校附属中学校、鹿島高等学校附属中学校、竜ヶ崎第一高等学校附属中学校、勝田中等教育学校、水戸市立第四中学校、水戸市立笠原中学校、日立市立十王中学校、筑西市立下館中学校、鉾田市立鉾田北中学校、土浦日本大学中等教育学校、聖徳大学附属取手聖徳女子中学校

### 3 審 査

#### (1) 審査方法

予備審査を通過した作品について、茨城県審査会（令和4年5月25日実施）で審査を行い、最優秀賞1編、優秀賞4編、入選6編及び学校奨励賞1校を選定した。（学校奨励賞は土浦日本大学中等教育学校）

また、入賞した上位5作品について、国土交通省で行われる中央審査に推薦することも併せて決定した。

## (2) 審査基準

### ① 優秀作品

テーマ「水について考える」にふさわしく、日常の生活体験や学習を通じて得られた内容で、次の基準を満たすもの。

- ・水の貴重さ、水資源開発の重要性などが適切にとらえられていること
- ・将来の夢、提案等が中学生らしくまとめられていること
- ・抽象的、観念的なものでないこと（地域性に触れている、実体験がいきいきと描かれている等）
- ・字句の正確さや、文章の構成がよくできていること

### ② 学校奨励賞

当コンクールに積極的に参加していること

## (3) 審査委員

委員長	渡 辺	勝	((株)茨城新聞社編集局長)
委員	阿 部	重 典	((株)茨城放送代表取締役社長)
〃	谷 島	竜太郎	(茨城県教育庁学校教育部義務教育課指導主事)
〃	石 川	昭	(茨城県土木部災害・防災対策監兼河川課長)
〃	横 山	卓 生	(茨城県政策企画部水政課長)

## 4 表 彰

### (1) 表彰式

令和4年7月27日（水）

### (2) 賞及び副賞

最優秀賞（茨城県知事賞）	1名	賞状、副賞（図書券）
優秀賞（茨城県知事賞）	4名	〃
入 選（茨城県知事賞）	6名	〃
学校奨励賞（茨城県知事賞）	1校	賞状



茨城県

茨城県政策企画部水政課  
〒310-8555 水戸市笠原町978番6  
電話 (029) 301-2625  
<http://www.pref.ibaraki.jp/>